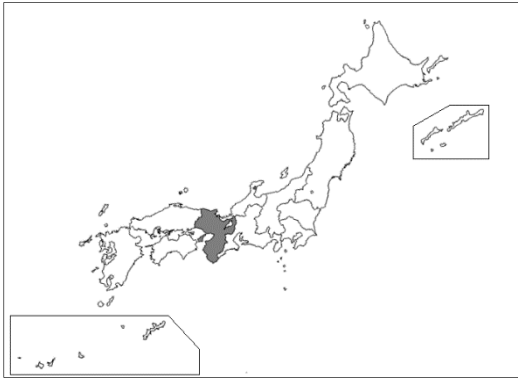


(8) 近 畿



近畿地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更) 。

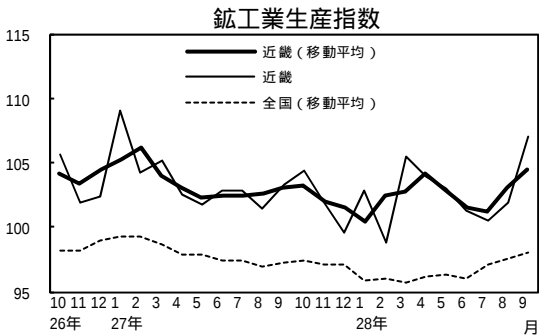
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 28 年 8 月)	今回 (平成 28 年 11 月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	↓
個人消費	持ち直しの動きが続いているものの、足踏み	足踏み	↓

1 . 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

7 ～ 9 月期は、石油・石炭製品、化学、プラ製品は、有機薬品等が低下したことにより低下となった。電子デバイス、電気・情報通信は、スマートフォン向け固定コンデンサや、セパレート型エアコン等が増加したことにより増加となった。汎・生産・業務用機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置等が低下したことにより低下となった。鉄鋼業、非鉄金属、金属製品は、建設用金属製品等が低下したことにより低下となった。窯業・土石、その他工業は、陶磁器・ファインセラミックス等が低下したことにより低下となった。



- (備考) 1 . 22 年 = 100、季節調整値。最新月は速報値。
2 . 全国及び近畿の太線は中心 3 か月移動平均。
直近月は 2 か月平均。
3 . 近畿は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 ～ 6 月期	7 ～ 9 月期	7 月	8 月	9 月
石油・石炭、化学、プラ製品	22.9	0.5	▲0.2	▲2.2	6.1	▲1.4
電子デバイス、電気・情報通信	18.0	▲0.6	6.9	2.3	2.5	▲1.9
汎・生産・業務用機械	17.9	6.5	▲2.9	▲4.9	▲3.4	30.0
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	12.4	▲7.3	▲5.3	1.1	3.1	▲4.1
窯業・土石、その他工業	9.6	0.2	▲0.8	▲1.4	0.5	4.5
鉱工業	100.0	0.4	0.4	▲0.8	1.5	4.9

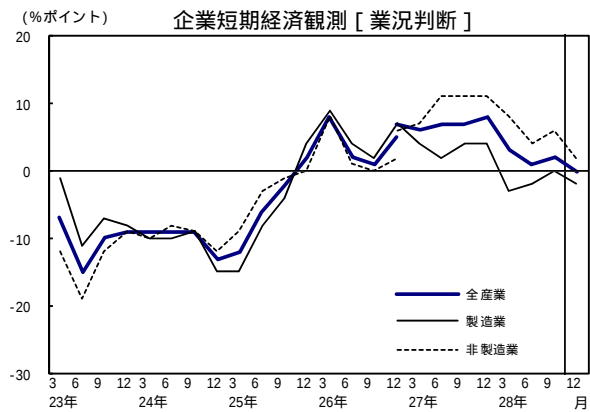
(備考) 1 . 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

2 . 7 ～ 9 月期、9 月は速報値。

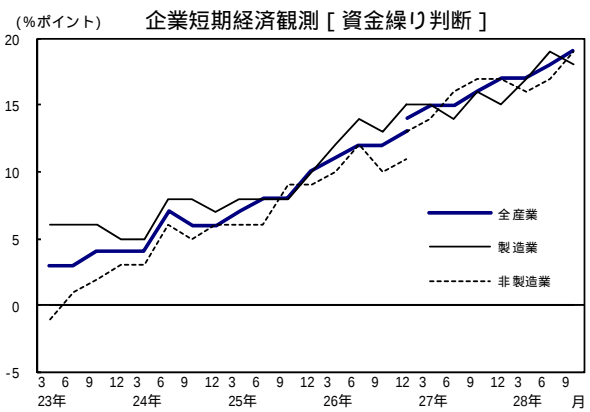
(8) 近畿

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

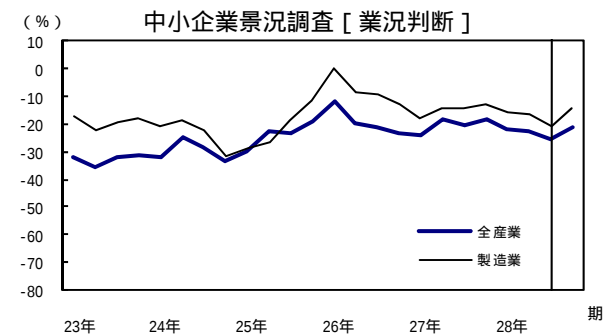
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考) 「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。28年12月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。



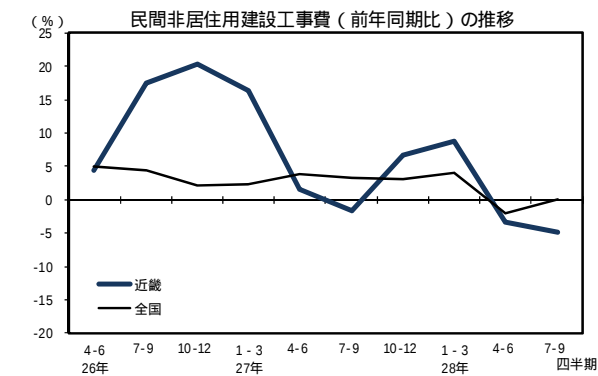
(備考) 「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考) 「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [企業動向関連 (現状)]
「インバウンドによる安い商品の大量購入が減少している (食料品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比、%)

	27年度実績	28年度見通
全産業	▲4.0	7.8(1.4)
製造業	5.5	16.7(4.2)
非製造業	▲9.5	1.9(▲0.7)

(備考) () は前回 (6月) 調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は足踏みがみられる。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

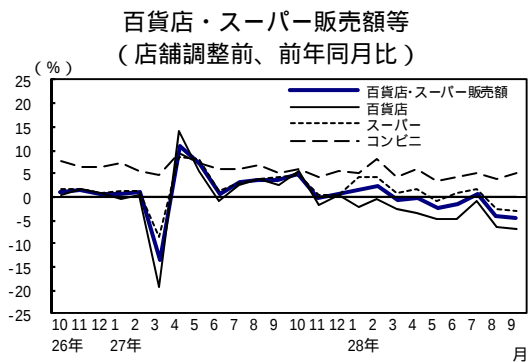
7月は前月比1.1%増、8月は同0.0%増、9月は同0.2%増となった。

百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7月は、気温上昇や前年から前倒したクリアランスセールが好調であったことや「飲食料品」が好調に推移したこと等により、前年を上回った。8月は、猛暑の影響で秋物衣料が不調となったことや訪日外国人による高額品購入が減少したこと、野菜等相場安の影響等により前年を下回った。9月は、残暑が続き秋物・冬物衣料が低調だったことや、台風被害による食材価格が高騰した影響で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査（10月調査結果）〔家計動向関連（現状）〕

「大型の4Kテレビの販売が好調なほか、電力の小売自由化により、光熱費に関心を示す客が増えてきた。それに伴い、省エネ家電の販売にも弾みがついてきている（家電量販店）」など、「良くなっている」とする回答が増加した。



	28年7-9月	28年7月	8月	9月
RDEI(消費*1)	0.7	1.1	0.0	0.2
百貨店・スーパー(*2)	▲2.6	0.6	▲4.1	▲4.7
百貨店(*3)	▲4.4	▲0.9	▲6.3	▲7.0
スーパー(*3)	▲1.4	1.6	▲2.7	▲3.1
コンビニ(*3)	4.8	5.1	3.9	5.3
乗用車(*4)	▲0.7	▲3.4	1.5	0.1
(季節調整値)(*4)	▲1.6	4.8	▲0.1	▲1.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

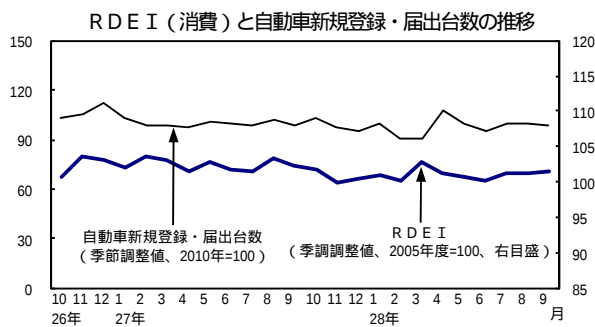
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。

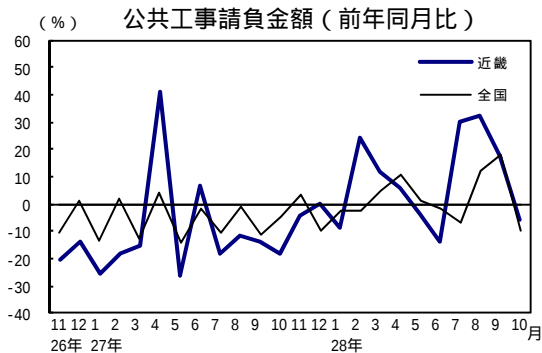
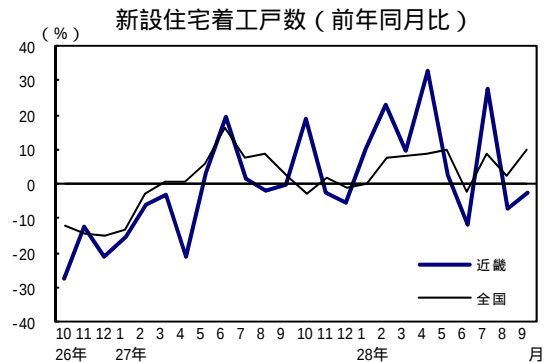
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は28年度累計でみると前年度を上回っている。



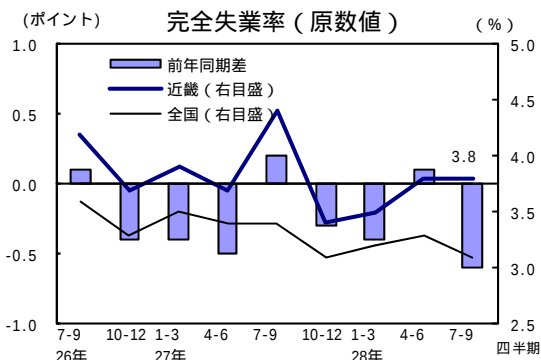
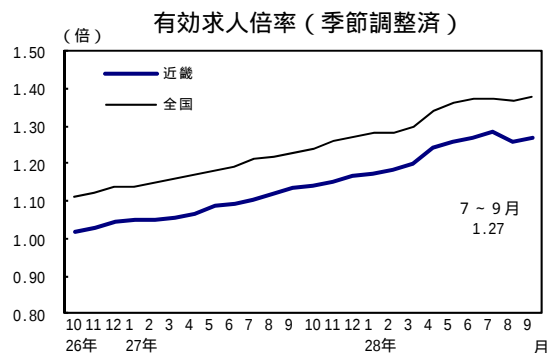
(8) 近畿

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月調査結果）〔雇用関連（現状）〕

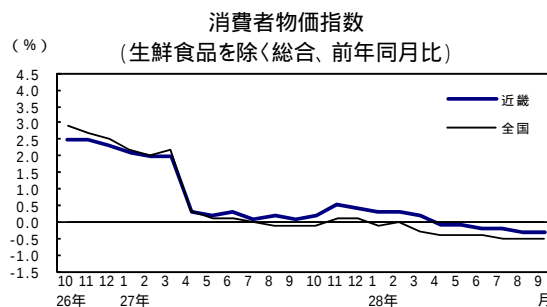
「季節調整済みの有効求人数が過去最高の水準で推移しており、新規求人の動きも良い（職業安定所）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年10-12月	28年1-3月	4-6月	7-9月	28年10月
倒産件数	531	527	532	512	163
(前年比)	▲9.1	▲5.6	▲10.0	▲5.4	▲9.4
負債総額	479	948	592	550	248
(前年比)	▲33.0	12.6	▲10.5	9.4	23.1



○ 景気ウォッチャー調査（10月調査結果）〔合計（特徴的な判断理由）〕

<現状>

・野菜の仕入価格が高く、前年の3倍に上がっているが、状況は変わらないため苦しい（一般小売店〔野菜〕）。

<先行き>

・年間最大の商戦である年末を控え、消費者のマインドがどちらへ向かうのかによって左右される。今年は暖冬ではなく、平年並みの気温が予想されるほか、節約志向の反動が年末年始に出ることも考えられるため、底堅く推移すると予想される（スーパー）。

景気ウォッチャー調査(季節調整値)

